

2022年度跡見学園女子大学附属心理教育相談所活動報告

1. 2022年度 年間活動報告

所員の構成

令和4年度の相談所の所員構成は、相談所相談員・補助相談員（臨床系教員）12名、事務担当者3名、インテーク面接担当者12名であった。

令和4年度相談員・補助相談員と開所日

令和4年度相談所開所日と相談員・補助相談員は以下のごとくであった。

令和4年4月2日（土）から令和4年8月6日（土）および令和4年8月22日（月）から令和5年3月31日（金）までは週6日開所とした。令和4年12月25日（日）から令和5年1月9日（月）の冬季休業中は閉所とした。

また、文京分室ATOMIさくらルームにおいては、上記開所日のうち、木曜日・土曜日を閉所とした。

相談員	下山 晴彦	（臨床心理学科・教授）
	阿部 洋子	（臨床心理学科・教授）
	新井 雅	（臨床心理学科・准教授）
	小栗 貴弘	（臨床心理学科・准教授）
	酒井 佳永	（臨床心理学科・教授）
	板東 充彦	（臨床心理学科・准教授）
	福島 里美	（臨床心理学科・講師）
	前場 康介	（臨床心理学科・准教授）
	松壽 くみ子	（臨床心理学科・教授）
	宮岡 佳子	（臨床心理学科・教授）
	宮崎 圭子	（臨床心理学科・教授）

補助相談員 鈴木 眞理 （臨床心理学科・特任教授）

相談所周知のための活動

本相談所のパンフレットを、他大学相談所等（101ヵ所）、近隣小・中・高等学校（100ヵ所）、近隣の保育園・幼稚園・放課後児童保育室（153ヶ所）、教育委員会・教育相談センター等（6ヵ所）、病院・クリニック（109ヵ所）、保健センター・児童相談所・子育て支援センター等（15ヵ所）、その他民間相談室等（7ヶ所）に送付し、あわせて本学公開講座受講者、本相談所無料講習会受講者にも配布した。

また、新座駅・志木駅構内掲示板へのポスター掲示および情報誌ぱど（新座志木版、川越版、ふじみ野富士見市版、所沢版、朝霞和光版）への広告掲載も行なった。

【相談所パンフレット】



跡見学園女子大学

跡見学園女子大学 心理教育相談所

■新座キャンパス 心理教育相談所 開室時間(月～土曜日:9:30～16:30)

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6 TEL:048-478-2177

■文京分室 ATOMI さくらルーム 開室時間(木・土曜日:13:00～16:50)

〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2 TEL:03-3944-8151

<http://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/index.html>

【ご相談内容】

跡見学園女子大学心理教育相談所では、女子大学の特徴を活かし、原則として主に子供、青少年、女性に関連するテーマのご相談をお受けしています。

学校に関する悩み

- 学校にいけない
- いじめにあっている
- 友達とうまく付き合えない
- 学業について困っている など

家庭生活に関すること

- 非行や家庭内での暴力に困っている
- 夫婦・親子・家族関係に悩みがある
- 近所付き合いについて悩んでいる
- 生活環境に問題がある など

職業に関すること

- 仕事が続かない
- 仕事にいけない
- 職場の人間関係で困っている
- 就職・転職について悩んでいる など

育児や障がい児の教育の悩み

- 子育てに困っている
- 障がい児のことで悩んでいる
- 障がい児にどう向き合うか困っている
- 障がい児をいかに育てるかを知りたい など

自分自身の性格や健康

- 人と話すのが苦手だ
- 自分の性格について悩んでいる
- 自分の精神的健康に自信がないなど
- 生き方について悩んでいる など

検査

- 知能検査
- 発達検査
- 発達障がい検査
- 学習障がい検査

※このようなご相談に対して、カウンセリング、心理療法、心理テストなどを行っています。 ※ご相談内容につきましては秘密厳守いたします。
※ご相談の内容によってはお引き受けできない場合もございます。

不登校を考える親の会(新座:月1～2回水曜日の午前10時～12時、文京分室:月1～2回土曜日の午後13時～15時)

【受付から相談まで】

本相談所は完全予約制となっております。まずはお電話にてお申し込みください。

【予約受付電話番号】 受付時間:午前9時～午後4時

新座キャンパス心理教育相談所 **048-478-2177**

文京分室 ATOMIさくらルーム **03-3944-8151**

初回の相談の予約をお取りし、ご相談の詳しい内容やこれまでの経緯、その他必要と思われることについて、臨床心理士およびカウンセラーが伺わせていただきます。

※電話での相談は受け付けておりません。また、大学の長期休暇等で受付時間を変更する場合があります。



面接室

・本相談所は臨床心理学専攻の大学院生の教育・研究機関を兼ねています。
・大学院生が陪席および相談を担当させていただく場合がございます。その場合には教員の指導の下に行います。

毎年新座・文京各3回程度、教員による心の問題をめぐる「講習会」(無料)を開催(詳細はホームページ)

2. 相談活動報告

2022年4月1日から2023年3月末日までの相談としては、新規相談件数54件、延べ相談回数886件、延べ来所人数1036名であった。

来談者の主訴は、子供の学校における問題、引きこもり、親子関係の問題、家族の問題など現代の世相を反映する傾向が認められた。月別来談者数および相談内容は以下のごとく。

表1. 月別来談者数

2022年4月～2023年3月末の来談者数

【新座キャンパス相談所】

() は内遠隔数

	初回相談件数 (件)	延べ相談回数 (回)	延べ来所人数 (名)
2022年 4月	5	61 (7)	74 (7)
5月	4	55 (9)	62 (9)
6月	5	61 (6)	69 (6)
7月	4	67 (8)	81 (8)
8月	3	43 (4)	57 (5)
9月	4	70 (11)	81 (12)
10月	7	73 (4)	83 (4)
11月	5	81 (8)	97 (8)
12月	3	72 (8)	86 (8)
2023年 1月	2	63 (7)	75 (7)
2月	4	67 (7)	81 (7)
3月	5	72 (7)	88 (7)
2022年度合計	51	785 (86)	934 (88)

【文京分室ATOMIさくらルーム】

() は内遠隔数

	初回相談件数 (件)	延べ相談回数 (回)	延べ来所人数 (名)
2022年 4月	0	9 (7)	9 (7)
5月	0	11 (8)	11 (8)
6月	1	7 (3)	7 (3)
7月	0	11 (3)	11 (3)
8月	0	4 (3)	4 (3)
9月	0	10 (0)	10 (0)
10月	1	9 (4)	10 (4)
11月	0	9 (4)	9 (4)
12月	1	8 (4)	8 (4)

2023年 1月	0	5 (4)	5 (4)
2月	0	9 (4)	9 (4)
3月	0	9 (5)	9 (5)
2022年度合計	3	101 (49)	102 (49)

表 2. 来談者の相談内容

2022年4月～2023年3月の来談者の主訴

来談者による主訴の種類	件数
家族の相談	33
自分自身の問題・性格	34
抑うつ・情緒不安定	4
対人関係	6
社会不適應	1
不登校	11
不登校の親の会	20
その他	22

3. 不登校を考える親の会報告

わが国の小・中学生の不登校は相変わらず24万人を超えている。そのような子どもに対して直接働きかけることは非常に難しく、次善の対応として親へのサポートがある。本相談所でもそれを行うべく、相談活動の一環として「不登校を考える親の会」を月に2回（新座キャンパス：第1、第3水曜日の10時～12時、文京分室ATOMIさくらルーム：第2、第4土曜日の午後1時～3時）、開催した。来年度は新座キャンパス：月1～2回水曜日の10時～12時、文京分室ATOMIさくらルーム：月1～2回土曜日の13時～15時で継続して活動していく予定である。



跡見学園女子大学

跡見学園女子大学附属心理教育相談所 「不登校を考える親の会」のご案内

小・中学生の不登校は、増加傾向にあり24万人を超えています。学校に行かない子どもには、ひとりひとりそれぞれの事情があります。

学校に行けない、行きしぶる、教室に入れない、朝起きられない、朝になると体調が悪くなる、イライラしている、落ち込んでいる、昼夜逆転している、部屋に引きこもっている、友達とうまくいかない、こんな様子はありませんか。

このような子どもをどう理解すればいいのか、どう向き合えばいいのか、親の会で、みなさまと一緒に話し合い、考えてみませんか。

***担当スタッフ**：相談所所属

***日時・場所**：2023年4月より2024年3月まで

新座キャンパス心理教育相談所、文京分室 ATOMI さくらルームともに開催しています。

（コロナ状況によっては、Zoom を利用した開催の場合もあります。）

新座キャンパス心理教育相談所

水曜日(月1～2回) 10:00～12:00 (2時間)

<https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/facility/>

文京分室 ATOMI さくらルーム

土曜日(月1～2回) 13:00～15:00 (2時間)

<https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/facility/#bunkyo>

※継続的な参加、単発的な参加どちらでも可能です。

※不定期の休会もあります。日程につきましてはホームページまたはお電話にてご確認ください。

***定員**：6名

***参加費**（相談料）：1回 1000円

***申し込み方法**：希望日の前日16:00までに、

下記へお電話でお申し込みください。

（初めの方は1週間前迄にお申し込みください）

申し込み・お問い合わせ

跡見学園女子大学附属心理教育相談所

（埼玉県新座市中野 1-9-6）

TEL 048-478-2177（相談受付/月～土 9:00～16:00）

ホームページ <https://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/>



4. 講習会報告

多くの方々に本相談所の存在を認知して頂くための活動の一環として平成15年度より開催してきた『講習会～こころを癒す～』を、今年度も開催した。

講習会を広報するとともに本相談所の存在を知ってもらい、心の問題を抱えているにもかかわらず専門機関に相談することをためらっている人に、本相談所を訪れるきっかけを作ることを目的とした。講習会の広報については、公共機関での広報、地域広報誌・ホームページへの掲載により行った。

講習会日程と参加人数

今年度は一般対象講習会を新座キャンパスにて全5回、文京キャンパスにて全5回開催した。開催日時およびテーマについては各講習会講師による講習会の概要報告の項を参照されたい。

講習会の延べ参加人数はコロナ禍の影響もあり、新座キャンパス96名、文京キャンパス94名であった。受講者の性別、年齢、職業、居住域、講習会を知った媒体については、以下の受講者傾向を参照されたい。併せて受講後アンケートの結果も以下に示してある。

受講者の傾向（新座キャンパス・文京キャンパス参加者合計190名）

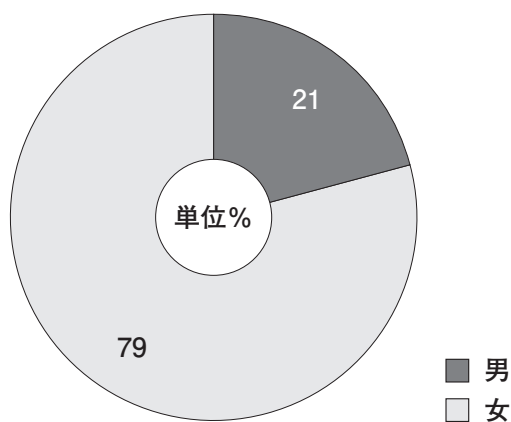


図1 講習会参加者性別構成 (N=190)

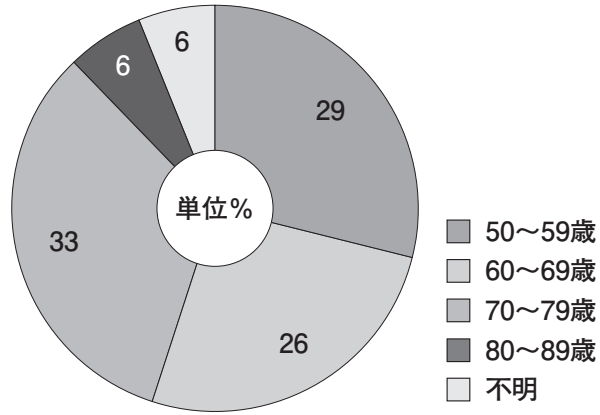


図2 講習会参加者年齢構成 (N=190)

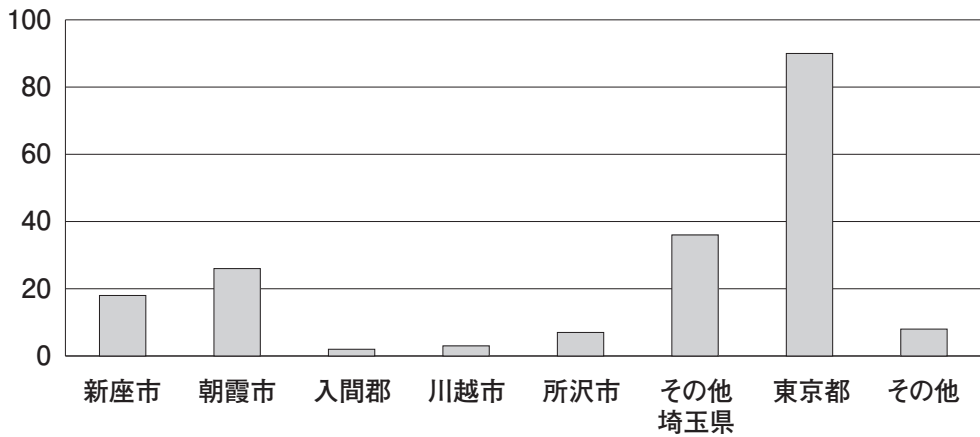


図3 講習会参加者居住地内訳 (N=190)

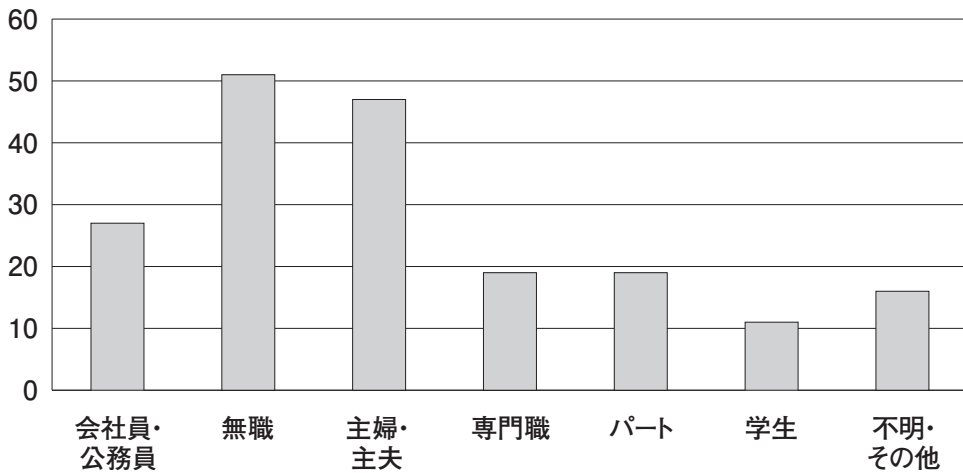


図4 講習会参加者職業内訳 (N=190)

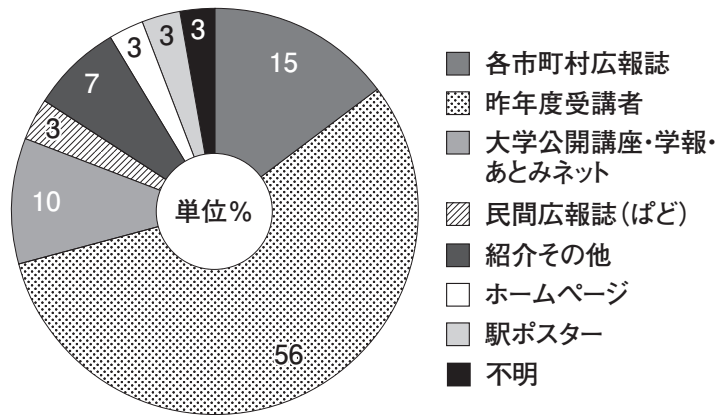


図5 講習会参加者経路内訳 (N=190)

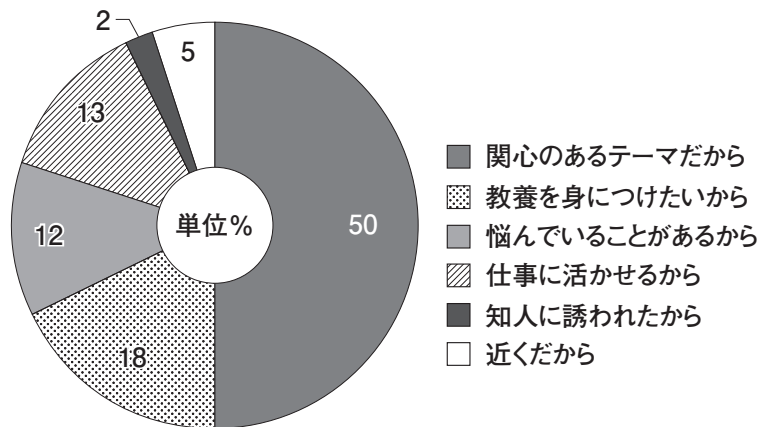


図6 受講した理由 (N=326：複数回答あり)

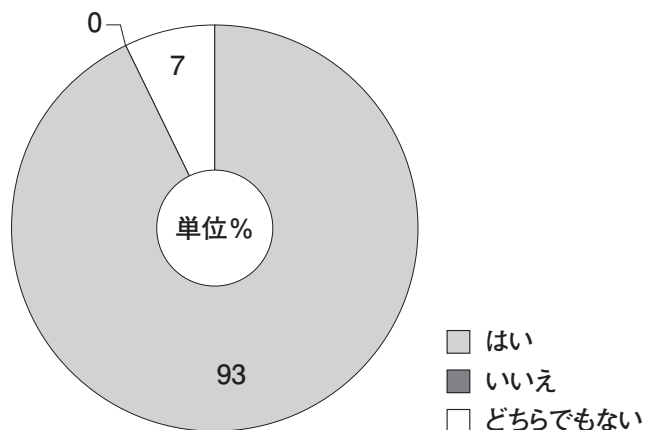


図7 講習会の内容を今後の生活にいかせると思うか (N=190)

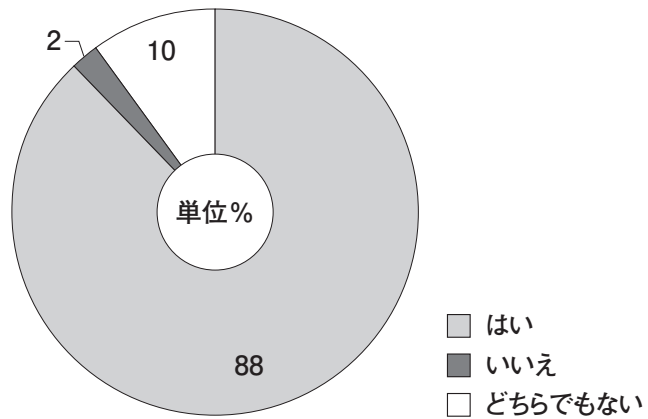


図 8 自分自身の悩みや問題を解決する手助けになったか (N=190)

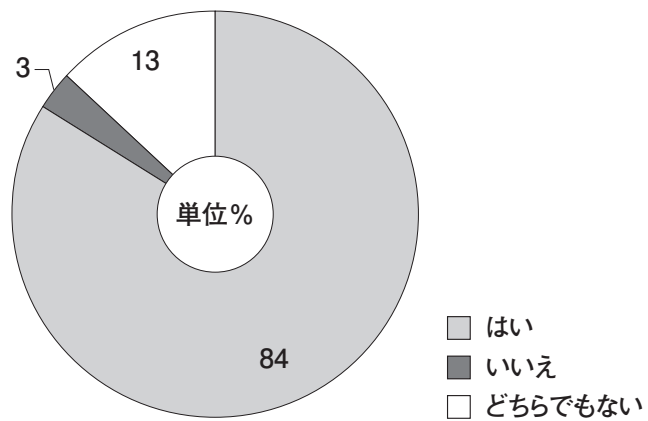


図 9 受講内容は期待どおりだったか (N=190)

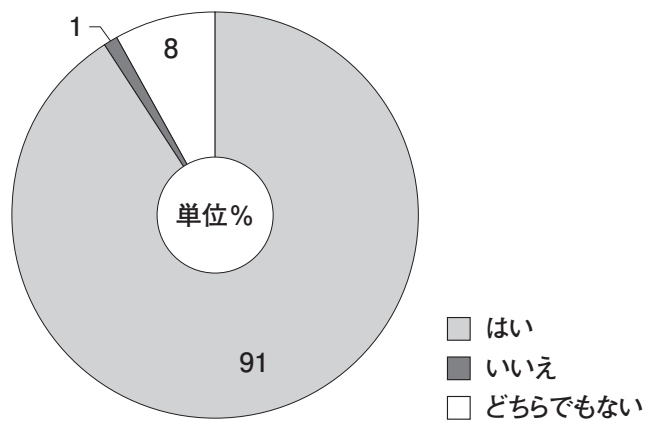


図10 講習会があったらまた参加したいか (N=190)

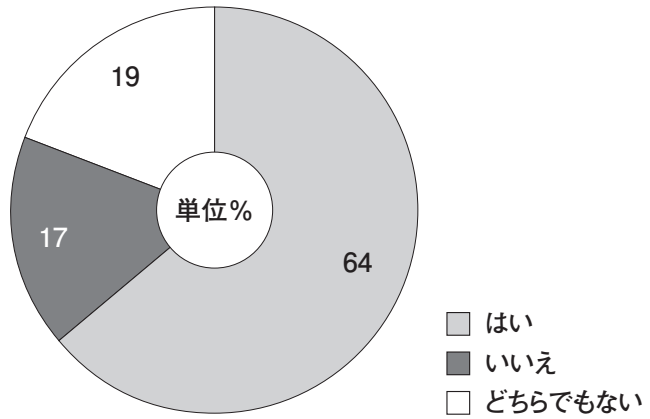


図11 機会があれば当相談所で相談してみようと思うか (N=190)

5. 講習会 概要報告

<1> 7月5日(火)・2月9日(木)

対人関係のスキル-さわやかな自己表現のコツ-

宮崎 圭子

講習会のポイントは以下を設定した。1. 「対人関係」のkeywordで、論文検索エンジン(邦文)でのヒット件数を提示し、どれだけ現代人が「対人関係」に強い関心を持っているかの根拠を提示、2. ヒト属の中で、ホモ・サピエンスだけが生き残ることができたのかの議論、3. ホモ・サピエンスにとって「コミュニケーション」「対人関係」とはどのような類のものなのか、4. ホモ・サピエンスが持つ「対人関係」の特徴の議論、5. アサーションとはなにか、6. さわやかな自己表現のための4つのポイントとは、の6点であった。「対人関係」というwordはすでに日常用語となっており、啓蒙書・スキル本も含めると、2000件以上ヒットする(アマゾン・本・2023.2.20現在)。そのため、本講習会の参加者の中には、すでに色々知識を持っておられる人もいるかと思われた。よって、ホモ・サピエンスの進化という流れの中で、「対人関係」「コミュニケーション」の意味づけを重要視した流れとした。また、各ポイントを参加者の方々の興味・関心を促進するために、画像・図を多く入れるよう工夫した。

新座の方の講習会では23人の参加者、文京さくらルームの方では26人(アンケート協力者は23人)の参加者があった。「受講内容は今後の日常生活に活かすことが出来ると思えましたか。」「自分自身の悩みや問題などを解決する手助けとなりましたか。」に、計45人が「はい」と回答。「受講内容は期待通りでしたか。」に計44人が「はい」と回答の結果であった。それなりにはお役に立てたようである。

一方で、コロナ禍のもと、「孤独大好き人間。コロナで、(さらに?)どっぷり孤独に浸ることに安らぎを覚え、人間関係が面倒くさくなってしまい抜け出せません。」という感想を記述された参加者が1人おられた。SNSの発達のおかげで、浅い人間関係(表面的な?)を好む若者が増えてきたとき。近未来には、異なるアプローチの講習会が必要になるのかもしれない。

<2> 7月14日(木)・2月16日(木)

こころとからだを癒す-健康的な生活習慣を身につけるヒント-

前場 康介

コロナ禍という例外的な社会状況にある中、健康的な生活習慣を維持する重要性がますます必要になりつつある。そのような状況を鑑み、今年度講習会は前回に続き「健康的な生活習慣を身につけるヒント」と題し、講演を行った。

心身相関という観点がある通り、我々のこころとからだには密接な関連がある。例えば、緊張や不安が強い場面では半ば自動的に身体が硬直し得るし、逆にリラックスした状態であれば弛緩した状態となる。現代社会において、このようなこころとからだの状態を把握し、適切な対応を図ることは決して容易ではない。不健康な習慣を改善することや、

健康的な生活習慣を維持するためには、健康や疾病に対する正しい知識を獲得し、そのうえで自身の現状をアセスメントし、しかるべき対処を行うことが極めて重要である。

講演では、まず参加者の方々に日頃の生活習慣を振り返っていただいたうえで、肥満やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病について、疫学的データ等も包含して概説した。さらに、健康心理学における様々な知見や理論・モデルを紹介し、それを日常においてどのように応用できるかについても解説を加えた。具体的には、Transtheoretical ModelやRelapse Prevention Modelである。

後半には、Go/No go Association Taskと呼ばれる潜在連合テストを実際に体験していただいた。このテストは、特に肥満や糖尿病を有する方々においてその成績が有意に低下すること等を述べ、そのことが不健康な生活習慣を改善する大きな妨げとなっていることをお伝えして、疾病予防の重要性について改めて認識していただいた。そして、不健康な生活習慣の原因となる「ストレス」についても概要を説明し、効果的なストレス解消方法を身に着けるための方法について検討を行った。

前回とは異なり、ご参加くださった人数はいずれも数十人にわたった。本テーマはある程度時宜を得た内容となっていた印象があり、一定の満足感を得て頂くことが可能となった。

< 3 > 7月15日(金)・12月17日(土)

高齢者の心理を考える—生きがい、幸福感—

阿部 洋子

総務省の「人口推計」(令和元(2019)年10月1日現在)で、65歳以上人口が、日本の総人口に占める割合(高齢化率)は28.4%となり、その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和18(2036)年には、33.3%で3人に1人が高齢者になることが予測されている。高齢化社会の到来により、介護・看病ということは他人事ではなくなっている。その一方で、元気な高齢者の方々のことも忘れてはならない。ただ元気とはいえども、現状、老化は避けて通ることが出来ない人生の出来事である。加齢に伴う、心理的・精神的な衰退の変化、衰退現象、社会的役割の変化をどのように受け入れながら、幸福感や生きがいを得ることが出来るかについて、様々な研究成果をお伝えした。

カミング等(Cumming & Henry, 1961)による「社会的離脱説」にあるように、社会的役割を剥奪されることで一層老化が進行することや、孤独や無趣味が「社会的死」をもたらすこと、更にバルテル等(Baltes, P. B. & Staudinger, U. M., 1993)による高齢者は一般的に考えられているより読み書きのスキル、言語理解、人生を切り抜ける戦略などは若者より優れているという調査データを提示していることなどについて説明をした。それ以外のこととして、エリクソン(Erikson, E. H.)が第8段階の老年期で「英知と絶望」の統合の中で、顔の皺や髪の毛が薄くなることは取るに足らない問題ではなく、その一寸した変化が、自己概念に大きな影響を及ぼすことや、自信喪失、対人関係面で積極性を低下させ、葛藤を生じさせることもあると述べている。しかしエリクソンはその先の最晩年

に「老人的超越」という第9段階があり、英知を生み出す者でなくなり恥のみが表面化してしまうなど、多くの喪失体験を経験しても「希望」という人間的な強さがあると主張していることを伝えた。そして人生への満足感や自尊感情を予測するのは、それまでに形成してきた人生への満足度や自尊感情であるという結果を導き出していることを伝えた。

アメリカ生まれのサクセスフル・エイジングの理論についても説明をした。その中で、祖父母に対する孫の及ぼす影響が、精神的健康度と強く関係していることを伝えた。日常的・情緒的援助機能（孫が祖父母に関心や理解を示す）だけでなく、最も関係しているのは「世代継承性促進機能」という孫の姿を通して、先祖からの繋がりや、自分の命が孫に引き継がれる実感を持つことであることを伝えた。

また社会的役割の喪失の対処方法として行政が実施している、シルバー人材センターなどを用いて、新たな役割を取得することも大切ではあるが、援助者側は有能で善良な存在として自己肯定感を高めることが出来るが、被援助者側は自力で解決することが出来ない無能で怠惰な存在として否定的に評価される傾向があることには注意する必要があることを伝えた。

< 4 > 7月22日（金）・12月3日（土）

ひきこもり青年の理解と対応

板東 充彦

「1. ひきこもりの理解」「2. コミュニケーションの基礎」「3. ひきこもりと関わる」という3項目に沿って講演を行った。

「1. ひきこもりの理解」では、「薬物療法が必要な群」「知的障害や発達障害をもつ群」「性格やアイデンティティの課題をもつ群」というひきこもりの3分類と外的・ひきこもりについて伝えた。その後、演者の研究成果からひきこもり者の言葉を紹介し、ひきこもりの心理として「世界への恐怖と守りのなさ」「エネルギーと希望の喪失」「混乱と『分からない』こと」という3点を概説した。

「2. コミュニケーションの基礎」では、マズローの欲求5段階説を提示しつつコミュニケーションの重要性と定義を伝えた。その後、言語的・非言語的コミュニケーションの区別と共に後者の重要性を伝え、傾聴の実践技法のレクチャーを行った。傾聴の効果として「自己肯定感の高まり」「信頼関係の構築」「ストレスの軽減」、傾聴の心得として「常に相手を主役と捉える」「相手に興味をもつ」「否定しない」などの諸点を伝えた。

「3. ひきこもりと関わる」では、「(1) 本人のひきこもりが改善されないのに親は元気になるのか」「(2) 本人となかなか関われない場合、どうすれば良いか」「(3) 本人と親の考えが矛盾／対立するときはどうする？」という3つの疑問を提示し、それぞれに対する解決方法を伝えた。具体的には、(1) 親は自責的になりやすいが、親の自立⇨子どもの自立であること。(2) 子どもの反応に期待をしすぎないことに留意して関わりを続けること。毛づくろいのコミュニケーション。(3) 問題の外在化。また、相手の反応を伺いながら少しずつ関わるプロセスを提示し、ひきこもりの重要な検討事項であるお金

と時間についての考え方を共有した。

参加者は真剣に参加しており、演者はその反応を見ながら講話を行った。終了後アンケートの結果も良好であり、心理教育相談所への来談を検討する参加者もいた。当相談所主催の講習会には、自身や身近な人に対するニーズをもって受講する人が多く、継続的なサポートを視野に入れた対応が望まれるであろう。

< 5 > 9月10日(土)・2月4日(土)

子どものころを育む心理教育の方法—社会性と情動の発達を促す手立て

新井 雅

予測困難で不確実、複雑で曖昧な状況 (volatile, uncertain, complex, ambiguous : VUCA) がより一層進行している近年の社会状況の中で、これからの学校教育では、予測不能な未来社会に向けて、様々な背景を有する他者と協働しつつ、知識・技能を活用・創造しながら、包摂的で持続可能な社会の創り手として、より良く生きるための「資質・能力 (コンピテンシー)」を子どもたち育むことが目指されている (e.g., 文部科学省, 2021)。この資質・能力 (コンピテンシー) には様々な要素が含まれるが、その一つに「社会情動的スキル (social and emotional skills)」(OECD, 2015) があげられる。この社会情動的スキルは非認知スキルや21世紀型スキル等と表現されることもあるなど、幅広い内容・要素が含まれる概念であるが、感情を制御・調整しながら、個人が目標を前向きに追求し、多様な他者と協働する際に必要となるスキルで、生涯にわたる心身の健康や豊かな社会生活を営むために非常に重要な役割を果たすことが指摘されており、学校教育等を通して、子ども達にこれらを育むための実践・研究が進められている。本講習会では、これらの近年の学校教育の動向について概略を説明した上で、これからの社会を前向きに生きていくために重要となる、「目標達成に向けてチャレンジする」「様々な他者と協力する」「感情を表現したりコントロールする」といった子ども達の社会性や情動の発達を促すための関わりや環境づくり、そして心理教育の方法やワーク等を紹介し、解説を行った。

文献

文部科学省 (2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して—全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現 (答申)— https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

OECD (2015). *Skills for Social Progress: The Power of Social and Emotional Skills*. OECD Publishing. ベネッセ教育総合研究所 (企画・制作), 無藤 隆・秋田喜代美 (監訳) (2018). 社会情動的スキル—学びに向かう力—明石書店

6. OB・OGカンファレンス報告

臨床心理学専攻の修了生（1～16期生：198名）の＜院修了後教育＞として、心理臨床家としての資質向上のために、月2回（木曜1回・土曜1回）「OB・OGカンファレンス」を実施した。以下が今年度の参加状況である。

令和4（2022）年度 OB・OGカンファレンス報告

（会場＝文京キャンパスM1303、ATOMIさくらルーム），木曜＝18：40～20：40／土曜＝14：30～16：30

●コロナ状況が改善されるまではzoom開催

回	日程	OB・OG参加者数	教員参加者数	院生参加者数	総数
1	04月14日（木）	14	2	2	18+（2）
2	04月30日（土）	4	2	2	8+（1）
3	05月07日（土）	6	2	3	11+（2）
4	05月26日（木）	13	2	5	20+（2）
5	06月23日（木）	9	2	6	17+（1）
6	07月30日（土）	6	2	4	12+（2）
7	08月04日（木）	11	2	3	16+（1）
8	08月13日（土）	7	2	3	12+（1）
9	09月03日（土）	7	1	1	9+（2）
10	09月08日（木）	8	2	2	12+（2）
11	10月06日（木）	12	2	2	16+（2）
12	11月10日（木）	9	2	2	13+（1）
13	11月19日（土）	6	2	1	9+（1）
14	12月08日（木）	9	2	0	11+（2）
15	12月17日（土）	5	2	0	7+（0）
16	01月12日（木）	6	2	0	8+（1）
17	01月21日（土）	4	2	0	6+（1）
18	02月09日（木）	8	2	0	10+（1）
19	02月18日（土）	4	2	0	6+（1）
20	03月09日（木）	6	2	0	8+（1）
	2022年度合計 （のべ数）	154	39	36	229+（27）

※（ ）内は外部参加者数

7. 委員会報告

2022年度の委員会は以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所委員会

日 時：令和4年6月22日（水） 12：20～12：54

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山晴彦、松嵯くみ子、森まり子、阿部洋子、板東充彦、福島里美

- 内 容：1. 令和3（2021）年度心理教育相談所活動報告
2. 令和3（2021）年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告
3. 令和3（2021）年度不登校を考える親の会報告
4. 令和3（2021）年度OB・OGカンファレンス報告
5. 令和3（2021）年度スーパービジョン研修会報告
6. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（4・5月期）
7. 令和4（2022）年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4・5月期）
8. 令和4（2022）年度心理教育相談所広報活動計画
9. 心理教育相談所相談員・補助相談員の任命に関する件について
10. 令和4（2022）年度心理教育相談所講習会日程
11. 心理教育相談所紀要リポジトリ化に伴う他機関への発送方法の変更について
12. さくらルームについて協議事項の報告
13. 相談所のシステム化について

第2回 心理教育相談所委員会

日 時：令和4年10月19日（水） 12：22～12：56

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山晴彦、松嵯くみ子、森まり子、阿部洋子、板東充彦

欠席者：福島里美（委員長に委任）

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（4月～9月期）
2. 令和4（2022）年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告
（4月～9月期）
3. 令和4（2022）年度第19号心理教育相談所紀要について
4. 令和4（2022）年度心理教育相談所講習会【新座】実施報告
5. 令和4（2022）年度心理教育相談所講習会【文京】日程
6. 令和4（2022）年度公認心理士試験結果報告
7. さくらルーム移転に関する緊急要望
8. 心理教育相談所の課題について

第3回 心理教育相談所委員会

日時：令和4年2月15日（水） 12：20～12：34

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山晴彦、松寄くみ子、森まり子、阿部洋子、板東充彦、福島里美

- 内容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（4月～1月期）
2. 令和4（2022）年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4月～1月期）
3. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（4月～1月期）
4. 令和5（2023）年度心理教育相談所予算申請について
5. 令和5（2023）年度心理教育相談所開所日程（案）
6. 令和5（2023）年度心理教育相談所インターン合否判定

8. 担当者会議報告

2022年度の心理教育相談所担当者会議開催は、以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所担当者会議

日時：令和4年4月13日（水） 12：20～12：56

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、福島、前場、松寄、宮岡、宮崎

欠席者：板東（所長に委任）

- 内容：1. 令和3（2021）年度心理教育相談所活動報告
2. 令和3（2021）年度大学院学外実習報告
3. 令和3（2021）年度不登校を考える親の会報告
4. 令和3（2021）年度OB・OGカンファレンス報告
5. スーパービジョン研修会報告
6. 文京区教育センターとの連携
7. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス実施予定（4月～9月）
8. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会実施予定（4月～9月）
9. 令和3（2021）年度第12回心理教育相談所担当者会議（臨時）報告
10. 令和4（2022）年度インターカー勤務日
11. 令和4（2022）年度心理教育相談所予算について
12. 心理教育相談所相談員の任命に関する件
13. 令和4（2022）年度心理教育相談所講習会について（確認）
14. 令和4（2022）年度心理教育相談所担当者一覧について（確認）

第2回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年5月11日（水） 12：20～12：53

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、板東、前場、松寄、宮岡、宮崎

欠席者：鈴木（所長に委任）、福島（所長に委任）

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（4月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（4月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（4月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（4月期）
5. 心理教育相談所紀要リポジトリ化に伴う他機関への発送方法の変更について
6. 自衛消防組織の編成と任務（編成表）
7. 相談所のシステム化について
8. さくらルームの存続に関して

第3回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年6月8日（水） 12：20～12：53

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、松寄、宮岡、

欠席者：前場（所長に委任）、宮崎（所長に委任）

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（5月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（5月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（5月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（5月期）
5. さくらルームについて協議事項ご報告
6. 「エッセンシャルズWAIS-IVによる心理アシスメント」及び「AQ（日本語版 自閉症スペクトラム指数）」購入について
7. AQ検査料について
8. プレイセラピーにおけるプレイルーム使用の再開について
9. 心理教育相談所紀要発刊について

第4回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年7月6日（水） 14：30～14：50

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、新井、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松寄

欠席者：阿部（所長に委任）、小栗（所長に委任）、宮岡（所長に委任）、宮崎（所長に委任）

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（6月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（6月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（6月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（6月期）
5. 8月・9月の相談所担当者（案）について
6. 心理教育相談所講習会（文京）日程について

第5回 心理教育相談所担当者会議

日時：令和4年9月7日（水） 12：20～12：57

場所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松崎、宮崎

欠席者：宮岡（所長に委任）

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（7・8月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（7・8月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（7・8月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（7・8月期）
5. 令和4（2022）年度心理教育相談所ATOMIさくらルーム講習会（案）について
6. 令和4年度春学期（4月～7月末）実習状況
7. 心理教育相談所紀要19号への投稿について
8. さくらルーム移転に関するご意見

第6回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年10月12日（水） 12：20～12：51

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松崎、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（9月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（9月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（9月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（9月期）
5. 令和4（2022）年度 心理教育相談所講習会【新座】実施報告
6. 令和4（2022）年度 公認心理師試験結果
7. クライアントへの検査結果の発行について
8. さくらルーム移転に関する緊急要望
9. 令和4年度春学期（4月～9月期）実習状況

第7回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年11月9日（水） 12：22～12：55

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松壽、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（10月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（10月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（10月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（10月期）
5. 新さくらルーム・新研究室レイアウト案への回答報告
6. デジタルシステム化に伴う予算について
7. カーテンクリーニングの予算申請について
8. 心理教育相談所の今後の広告について

第8回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和4年12月7日（水） 12：20～12：50

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松壽、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（11月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（11月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（11月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（11月期）
5. 令和5（2023）年度心理教育相談所インターン選考基本方針・実施要項(案)
※書類審査委員・面接審査委員の選出
6. 令和5（2023）年度心理教育相談所予算申請について

第9回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和5年1月11日（水） 12：20～12：50

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松壽、宮岡、宮崎

- 内 容：1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（12月期）
2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（12月期）
3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（12月期）
4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（12月期）
5. 2. 3月の相談所担当者（案）について
6. 院生の「修士論文研究におけるデータ活用の件」について
7. 未成年のカウンセリングの親面接について

第10回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和5年2月8日（水） 12：20～12：50

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、前場、松寄、宮岡、宮崎

欠席者：福島（所長に委任）

- 内 容：
1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（1月期）
 2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（1月期）
 3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（1月期）
 4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（1月期）
 5. 18期生学外実習先 春・秋割り振り
 6. 令和4（2022）年度臨床心理士資格試験結果について
 7. 令和5（2023）年度心理教育相談所開所日程（案）
 8. 令和5（2023）年度心理教育相談所講習会について
 9. 院生の「修士論文研究におけるデータ活用の件」について（継続案件）
 10. 未成年のカウンセリングの親面接について（継続案件）
 11. デジタルシステム導入のアシスタントの採用について
 12. 令和5年度文書発行料にともなう減免措置について

第11回 心理教育相談所担当者会議

日 時：令和5年3月8日（水） 12：20～12：50

場 所：TeamsによるWeb会議

出席者：下山、阿部、新井、小栗、酒井、鈴木、板東、福島、前場、松寄、宮岡

欠席者：宮崎（所長に委任）

- 内 容：
1. 令和4（2022）年度心理教育相談所活動報告（2月期）
 2. 令和4（2022）年度大学院学外実習報告（2月期）
 3. 令和4（2022）年度不登校を考える親の会報告（2月期）
 4. 令和4（2022）年度OB・OGカンファレンス報告（2月期）
 5. 令和5（2023）年度心理教育相談所インターン選考結果報告
新規＝2名、継続＝18名 合計20名が来年度インターンとして登録
 6. 令和5（2023）年度心理教育相談所インターカー選考結果報告
新規＝3名、継続＝7名 合計10名
 7. 令和4（2022）年度ATOMIさくらルーム講習会実施報告
 8. 令和5（2023）年度心理教育相談所オリエンテーション
 9. 心理教育相談所ホームページ掲載文書（案）
 10. 院生の「修士論文研修におけるデータの活用の件」について（継続案件）
 11. 富士見市教育相談室と相談所の契約書について